

要注意外来生物リスト(哺乳類・鳥類)(案)

被害に係る一定の知見はあり、引き続き指定の適否について検討する外来生物

和名	学名	*	文献等で指摘されている影響の内容	摘要
インドクジャク	<i>Pavo cristatus</i>	要	生態系(競合・駆逐)	野外への定着は、沖縄においてのみそのおそれがある可能性があるが、沖縄以外でも教育用や展示用で広範に飼養されている。

被害に係る知見が不足しており、引き続き情報の収集に努める外来生物

和名	学名	*	文献等で指摘されている影響の内容	摘要
リスザル	<i>Saimiri sciureus</i>	要	生態系(競合・駆逐)	野外での目撃事例が多い。
ツマリス	<i>Tamias sibiricus</i>	要	生態系(競合・駆逐、遺伝的攪乱)	亜種イソツマリスとの交雑が懸念される。
フェレット	<i>Mustela furo</i>	要	生態系(競合・駆逐、捕食)	海外では、野生化した個体による鳥類の卵・雛などの捕食が報告されており、愛玩飼養を禁止している国もある。我が国への輸入個体は、ほとんどが去勢・不妊、臭腺除去手術が施されている。
シリアヒヨドリ	<i>Pycnonotus cafer</i>		生態系(競合・駆逐)、農林水産業	海外で野菜や果物の食害を与えている。在来のヒヨドリとの競合が懸念される。
外国産メジロ (ハイハラメジロ、ヒメメジロなど)**	<i>Zosterops palpebrosus</i> , <i>Z. japonicus simplex</i> など	要	生態系(遺伝的攪乱、競合・駆逐)	野生化すれば、近縁種および亜種間で交雑が起こり、遺伝的攪乱を招く可能性が高いと思われるが、交雑の事例が確認されていない。優占種になることにより、似た資源を利用する在来の競争種への影響が懸念される。外国産及び在来のメジロについては、鳥獣保護法により輸入や飼養が規制されている。
シジュウカラガン大型亜種	<i>Branta canadensis moffiti</i>		生態系(遺伝的攪乱)	ニュージーランド、ヨーロッパに移入されて増えているオオカナダガン(<i>Branta canadensis moffiti</i>)である可能性の高い、別亜種が定着しており、在来亜種との交雑の可能性がある。
コリノウスラ	<i>Colinus virginianus</i>		生態系(捕食)	原産地のアメリカでは森林から草原まで、様々な環境に生息しており、日本でも一部の地域で定着しているが、生態系への具体的影響については不明な点が多い。
テニソチョウ	<i>Vidua macroura</i>		生態系(競合・駆逐)	托卵習性を持つが、原産地における托卵宿主が日本に存在しない。多くの種に托卵するという報告があり、在来種の巣に托卵を始める可能性もあるが、その可能性と影響に対しては不明な点が多い。
カエリセイタカシギ	<i>Himantopus himantops mexicanus</i>		生態系(遺伝的攪乱)	我が国に人為的に放鳥された個体群が定着しており、絶滅危惧 B類(EN)となっている在来のセイタカシギ亜種との交雑による遺伝的攪乱の影響は大きいと懸念されるが、定着の実態や影響の程度に関する知見は不足している。

*要:要注意リスト掲載種、未:未判定外来生物、日本生態学会リスト100 IUCN7-リスト100

** *Z. japonicus*の亜種、ヒメメジロ(*Z. japonicus simplex*)、ハイハラメジロ(*Z. j. hainanus*)、キチメジロ(*Z. j. batansis*)、フイリメジロ(*Z. j. meyeri*)を含む。在来メジロ(*Z. j. japonicus*、*Z. j. steunegeri*、*Z. j. alani*、*Z. j. insularis*、*Z. j. loochoensis*、*Z. j. daitoensis*)は除く